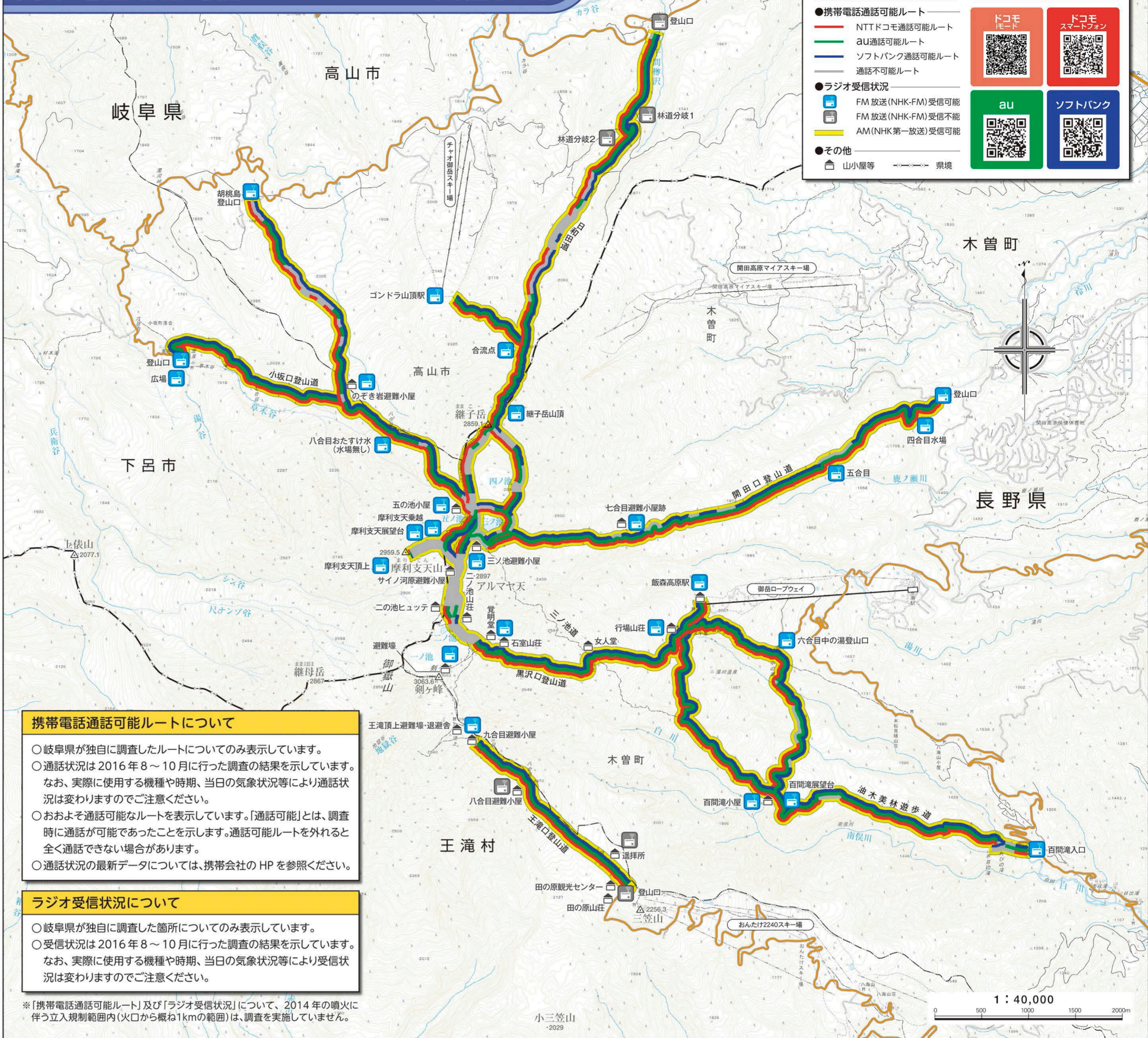


携帯電話通話可能ルートとラジオ受信状況



携帯電話通話可能ルートについて

○岐阜県が独自に調査したルートについてのみ表示しています。
○通話状況は2016年8～10月に行った調査の結果を示しています。なお、実際に使用する機種や時期、当日の気象状況等により通話状況は変わりますのでご注意ください。
○おおよそ通話可能なルートを表示しています。[通話可能]とは、調査時に通話が可能であったことを示します。通話可能ルートを外れると全く通話できない場合があります。
○通話状況の最新データについては、携帯会社のHPを参照ください。

ラジオ受信状況について

○岐阜県が独自に調査した箇所についてのみ表示しています。
○受信状況は2016年8～10月に行った調査の結果を示しています。なお、実際に使用する機種や時期、当日の気象状況等により受信状況は変わりますのでご注意ください。

*「携帯電話通話可能ルート」及び「ラジオ受信状況」について、2014年の噴火に伴う立入規制範囲内(火口から概ね1kmの範囲)は、調査を実施していません。



連絡先



緊急時の連絡先

下呂警察署	0576-52-0110
高山警察署	0577-32-0110
下呂市消防本部	0576-25-5119
高山市消防本部	0577-32-0119

気象、火山に関する情報

気象庁地震火山部火山監視・警報センター	03-3212-8341
岐阜地方気象台(平日中のみ)	058-271-4108

関連機関連絡先

岐阜県危機管理本部危機管理政策課	058-272-1131
岐阜県飛騨県事務所	0577-33-1111
下呂市役所	0576-24-2222
高山市役所	0577-32-3333
高山地域救急医療情報センター(休日や夜間などの病気、怪我のとき)	0577-34-3799

観光情報など

下呂市役所観光課	0576-24-2222
飛騨小坂観光協会	0576-62-2570
高山市役所観光課	0577-35-3145
飛騨高根観光協会	0577-59-3131
飛騨あさひ観光協会	0577-55-3777

※連絡先は令和2年6月時点の名称を記載しています。 令和2年6月発行

噴火に備えて

御嶽山は活火山です!

過去1万年以内に噴火した火山および現在活発な噴気活動のある火山を「活火山」と定義しています。御嶽山は近年では1979年(昭和54年)、1991年(平成3年)、2007年(平成19年)に噴火がありました。また、2014年9月に発生した水蒸気噴火では戦後最悪の火山災害をもたらした。現在も噴気活動を続けています。噴火やそれに伴う危険に備えましょう。

御嶽山の活動状況チェック!

・御嶽山の噴火警戒レベルについて

噴火警戒レベルとは、火山活動の状況や噴火時等の危険範囲や避難等の必要な防災対応に応じて5段階(レベル1～レベル5)に区分したものです。住民や登山者等に必要なる防災対応が分かりやすいように、各区分にそれぞれ「活火山であることに留意」「火口周辺規制」「入山規制」「避難準備」「避難」のキーワードをつけて警戒を呼びかけます。なお、レベルの段階に関わらず、気象庁からの情報には常に注意ください。

予報・警戒の名称	レベル・キーワード	登山者・入山者等への対応
噴火警戒	レベル5: 避難	危険な居住地域からの避難等が必要
	レベル4: 避難準備	警戒が必要な居住地域での避難の準備等が必要
火口周辺警戒	レベル3: 入山規制	登山禁止や入山規制等危険な地域への立ち入り規制等
	レベル2: 火口周辺規制	火口周辺への立ち入り規制等
噴火予報	レベル1: 活火であることを留意	状況に応じて火口内への立ち入り規制等

登山道の規制について

噴火警戒レベルの引き上げに伴い、火口周辺の立ち入りを規制する場合があります。立ち入りが規制されている場所へは、絶対に入らないようにしましょう。

御嶽山上空の風向き

噴煙は風に吹かれて風下へ流れ、噴石や火山灰を降らせ、噴火した場合は上空の風向きをチェックしましょう。

災害を起こす主な火山現象

噴石・火山弾

噴火によって火口から吹き飛ばされる岩石。大きな噴石は落下時間が短く、避難までの時間的余裕がほとんどありません。また、数センチメートル離れた場所まで被害が及ぶことがあります。

火砕流や火災サージ

火山灰や岩石と火山ガスなどが混合し、地表に沿って流れる現象です。速さは時速百Km以上。温度は数百度に達することもあり、火砕流を伴う火災サージはより速やかに到達します。

土石流

斜面に降り積もった火山灰や噴石が、雨の時に水と混じって谷などを勢いよく流れ下る現象です。大雨の時は注意が必要です。

溶岩流

マグマが火口から流れ出し、山の斜面を流れる現象です。速度は遅いが高温です。

火山灰

噴火によって泡立ったマグマの破片(軽石)や溶岩のかけらが噴き上げられ、地上に降る現象です。軽石や火山灰は風下に降るので、上空の風向きに注意し、火山灰が降ってきたらマスクが濡らしたハンカチなどで口と鼻をおおきましょう。目に入ったら、こすらずに洗い流しましょう。

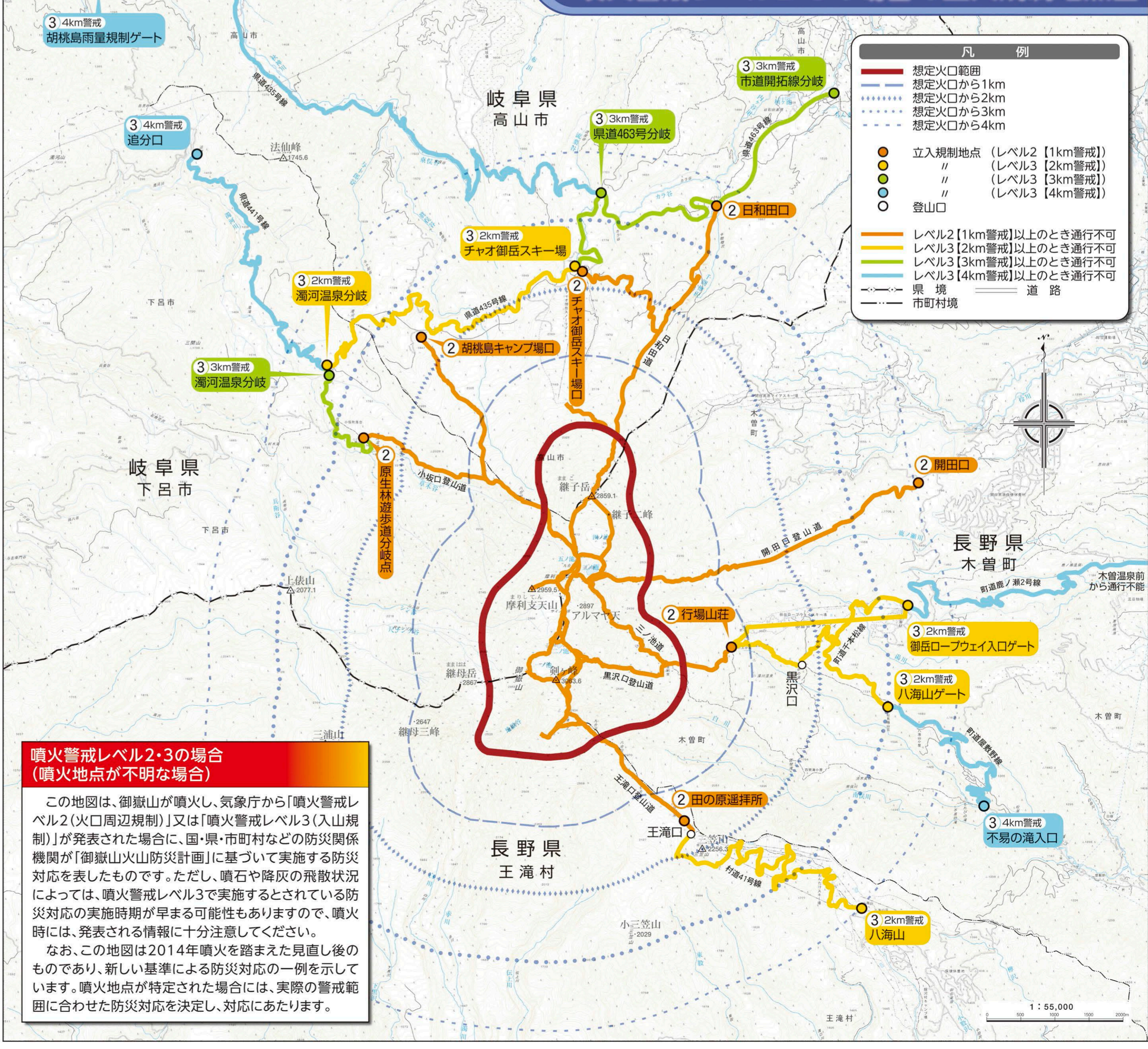
火山ガス

二酸化硫黄や硫化水素など有毒なガスが含まれています。規制場所には入らないでください。窪地や谷地形などに溜まりやすく、無風のときは特に注意が必要です。

空振

噴火に伴う爆発によって生じる空気の振動。衝撃波が大気中に伝播する現象。火山に面した窓ガラスなどが割れる被害が生じます。

噴火警戒レベル2・3の場合の立入規制地点図



噴火警戒レベル2・3の場合(噴火地点が不明な場合)

この地図は、御嶽山が噴火し、気象庁から「噴火警戒レベル2(火口周辺規制)」又は「噴火警戒レベル3(入山規制)」が発表された場合に、国・県・市町村などの防災関係機関が「御嶽山火山防災計画」に基づいて実施する防災対応を表したものです。ただし、噴石や降灰の飛散状況によっては、噴火警戒レベル3で実施するとされている防災対応の実施時期が早まる可能性がありますので、噴火時には、発表される情報に十分注意してください。

なお、この地図は2014年噴火を踏まえた見直し後のものであり、新しい基準による防災対応の一例を示しています。噴火地点が特定された場合には、実際の警戒範囲に合わせた防災対応を決定し、対応にあたります。